



第一地区コミュニティ

沼津第一地区コミュニティ推進委員会広報紙 第48号 平成24年3月1日発行

小中教頭先生のごあいさつ

国際的な空気が漂う
地区に

沼津市立第一小学校 教頭

門間 信昭



第一小学校に来て二年目、仲見世商店街の窓飾りを楽しく見たり、ソーラン節を踊る子どもたちを追いかけて人混みをかき分けたりしています。

小学校は二十三年度から、新指導要領の実施となりました。その中で、私が期待しているのは、外国語活動の実施です。

仲見世商店街には、中国・韓国・インド料理店や、多国籍の品物が並び、様々な国の人々が来ます。

子どもたちがこういう人々とコミュニケーションをとり、インタラクティブに活動できる素地を持って欲しいと願っています。

今年はALTと共に英会話講師を導入しました。



国際的な空気が漂う地区になったら素晴らしいと思います。

第一中の前庭

沼津市立第一中学校 教頭

鈴木 誠



23年度、第一中に赴任して楽しんだことの一つに前庭の整備があります。花壇作りでは、ボランティア生徒のアイデアを採用してコリウスなどを植えました。また、伸びた樹木の剪定を思案中に、台風15号にユリノキ2本が倒されたため、予定より早く森校長、井上用務員とイチヨウなどを剪定しました。

平成10年、前庭は旧校舎跡に地域の公園も兼ねて造られ、春にはヤマザクラが咲き、初夏に赤紫に色づいたヤマモモの実を生徒が見し、夏にはケヤキの緑が映え、秋はイチヨウが輝きます。

この環境で、生徒会役員、生活委員、野球部員が毎朝挨拶運動を行って生徒を迎えています。放課後は、近所の子ども達が賑やかに遊び、地域の方が散歩に訪れます。

24年は前庭の花を少し増やしたいと思っています。園芸に詳しい地域の方にご支援いただけたらありがたいです。

コミュニティ文化祭

工夫された展示部門 楽しめた演技

二十三年度のコミュニティ文化祭は十一月六日(日)、行われた。途中小雨が降る天候だったが、例年通り、展示部門、模擬店販売、お茶会、カボチャアート、健康相談、囲碁・将棋、豚汁サービス、焼きソバ、焼きとり販売とコミュニティ推進委



員、各部総出で準備し、実施された。

中でも展示部門では例年より作品が少なく、教育文化部も数日間、連絡調整をしていた。生け花、盆栽、絵画、写真、手芸、陶芸、パン、児童・生徒作品、幼児の作品といういろいろあったが各町内からの作品がもう少し欲しい感じがした。それでも会場は観賞しやすいすっきりとした



たんぽぽコーラス

スタイルに工夫されていた。一方、体育館での演芸部門では、放送で呼びかけるなどの工夫でいつもより客数が多かった。演芸工程に従い、時間通りに開始、バイオリンやピアノの演奏から始まり、大正琴、合唱、韓国語のアニョンハセヨの紹介民踊、空手演技、太極拳表演、ダンスと続き、最後は昨年に続き県大会でも優勝した第一中学校吹奏楽の演奏で盛り上がり幕を閉じた。出演者は一〇三名、観客を加えて三〇〇名、毎年地区センターを利用している団体に呼びかけ、昨年度から新団体も加わり、今年も一団体。表現力も向上して、観る者、聴く者みな楽しめる演芸部門であった。

コミ祭六〇〇名程度参加
生涯学習委員 渡辺勝代

平成24年 第一地区成人式

平成24年1月8日、素晴らしい晴天のもとに、第一地区成人式がザ・グランドティアラにて開催されました。

第一地区の特色は毎年、「親子で祝う成人式」をキャッチフレーズに和気藹々に行っています。

定例行事とはいえ、コミュニティ役員と地域・商店街の皆様のおかげで第一地区らしさを醸し出した、沼津で一番の素晴らしい成人式だと自負しています。

年々新成人が減少していくなかでも、第一地区の新成人についての印象ですが、他市に起こる荒廃した成

人式などは全く考えられず、時代背景のなかで、めまぐるしい政治、経済、社会状況、にとらわれず毎年変わらない新成人のあるべき姿、存在感は、第一地区の20才という年代がいかに大人として常識人であるかを感じさせられます。

なお、新成人議会に出席し質問もしていただいた、星 亜依さん、森 瑞希君にお礼を申し上げます。

今後も、皆様の協力を得て第一地区らしい成人式を行いたいと思います。

第一地区青少年育成推進委員会

代表 荒井義夫



一月十五日の日曜日午後一時より第一地区センターを会場にして、テレビ寺小屋の公開録画が行われました。講師はあの人気者の歌手「イルカ」さんです。で、会場は超満員のにぎわいで、デビュー40周年、還暦を迎えたイルカさんは昔のまま若さ一杯に、楽しいお話をされ、最後にギターを手にして作詞、作曲された「はんぶんこ」という童謡を歌ってくれました。会場の皆さんは、ご自身の若いころを思い出しておられた様で、和やかな雰囲気になっていました。

歌手イルカさんの テレビ寺小屋

沼津の歴史

道喜塚について

大庭 晃

三枚橋城の最後の城主大久保次右衛門忠佐は慶長十八年（一六一三）に七十七歳で病没した。後継ぎがなかったため、三枚橋城は廃城となった。『沼津史料』（間宮喜十郎著）には「忠佐の墓は西条の南、病院の側数歩の地にあり：以下略」とあり、昭和二十年まであった駿東病院近くに墓があったと書いてある。

忠佐の戒名は「源信院殿道喜日諦大居士」だったので彼の墓を「道喜塚」と称した。墓は天保六年（一八三五）の本町野方絵図には「道喜塚」、また天保八年の本町絵図には天保六年と同じ形をした石が描かれ「大久保次右衛門様廟所」と書かれている。明治二十三年に旧沼津宿の本陣を勤めた清水謙氏により、古い石に換えて「故沼津城主大久保忠佐之墓」と刻まれた墓標が建てられた。

明治三十年に第一小学校が町方町から現在地に移転して以後、昭和二年に、亡くなった児童、教員を追悼して「学児哀悼之碑」と「職員英魂之碑」が道喜塚の所に建てられ、忠佐の命日である九月二十七日に魂祭りを行ったのが始まりで以後毎年慰霊祭を行ってきた。

なお忠佐の墓は彼が生前深く帰依していた東間門の妙伝寺にも建てられていることを付記しておく。

どんど焼き



第一小学校のグラウンドで、1月14日(土)の朝、どんど焼きが行われました。8時に点火されるとやぐらは勢いよく燃え上がり、無病息災を願いながら炎を囲み、見守りました。

しばらくすると、アルミホイールで包み、竹の先に刺した団子を準備した子供たちが、次々にそれを火であぶり、用意したみつつつけて、おいしそうに食べていました。今年一年みな健康でありますように。



よさこい東海道

平成二十三年十一月十二日(土)、十三日(日)、今回で十五回目を迎える「よさこい東海道」。第一小学校の三・四年生が今年も参加しました。

良い思い出

四年一組 内田朱音

11月12日私たち第一小学校の3、4年生は「よさこい東海道」の前夜祭に参加しました。毎年3、4年生が出演しているのが4年生の私は今年が最後の参加になりました。

今年は初めて「よつちよれ」を踊りました。オープニング演舞では、沼津駅南口にたくさんの人が見に来てくれていて、少しさんちようしたけど、大きな声を出して元気におどったとしても気持ちよくて楽しかったです。今年でかわりかと思うとちよつと残なんです、放課後の練習も、本番でがんばった事とても良い思い出になりました。



最高の思い出

四年一組 丸山太一

ぼくたち4年生と3年生が、仲見世、上土、駅前で、よつちよれをおどりました。毎日、放課後に、みんなで練習し、本番にむけて、がんばりました。曲が流れると、さんちようしました、が、わくわくもしました。仲見世では、たくさんのお客様がおうえんしてくれました。はく手もたくさん聞かれました。うれしかったです。ぼくたちは、今年が最後のよさこいなので力いっぱいなることをならしみんな協力して、おどりました。終わった時のたっせい感がすごいわきました。みんなで力を合わせて、最高のおどりをすることができ、最高の思い出でした。



出初め式 地元消防団第2分団

地域の皆様には日頃より消防団活動にご協力いただき有難うございます。自らの地域は、自らが守るという使命感のもと、火災消火だけでなく地域の行事・火災予防広報や警戒活動等も行なっています。

消防団員は特別職の地方公務員(非常勤)として、一定の要件の下、防火管理者・特殊無線従事者の資格が取得できます。現在、沼津市内に消防団は40分団在りますが、定員数が満たない分団もあり、第2分団も定員25名に対して12名で活動しておりますが年齢も高齢化して活動に支障をきたしています。

第2分団の活動として1月の出初め式から始まり春季・秋季火災予防週間・歳末の警戒活動・毎月1回の定例会(備品点検)を実施しています。

昨年は沼津市を代表として駿東支部大会、駿東支部を代表とし

て静岡県消防操法大会に出場しました。写真は1月9日の出初め式で第一小学校にて地元第2分団が全分団の前で訓練成果の披露を行っているところです。

消防団では沼津市に居住又は勤務する18歳以上の心身ともに健康な方を募集しています。消防団活動に興味のある方は各自治会長に連絡して下さい。尚、女性消防団員(紫明隊)も募集しています。

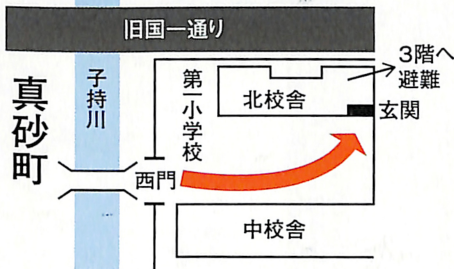


地震だ! 津波だ! すぐ逃げる!

第一地区は大丈夫?自分の生命は自分で守る!

津波でんでんこ

12月4日 真砂町の避難訓練



平成二十三年十二月四日県下一斉地域自主防災の日、各町内別に訓練が行われました。真砂町では東日本大震災の津波を想定して今年も津波から逃げる避難訓練を行いました。午前九時にサイレンが鳴り地震が起きた、津波が来るぞという設定のもとに訓練を開始した。真砂町には高い建造物、場所がないので第一小学校北校舎の三階に避難する事にしました。各自、家を出てから五分から十分以内に到着するように目標をたてたところ、町内の住民約二百名の人々が集合し津波訓練に関心があつた。自分自身は自分で守る、この事を教訓にし、訓練に参加し、体験をしていると有事の時には頭の中から出てくるもので、役立つ事から、これからも訓練に参加して欲しいものです。

真砂町自主防災会指導部長
斉藤雅美

最新版ハザードマップ



12月7日開催
第一地区防災講座

地震だ・津波だ・すぐ避難! 昨年三月十一日発生、東日本大震災のテレビ放映で、今まで地震による津波意識を甘くみていたように思います。昨年十二月七日、沼津市危機管理課の担当者から津波について説明を受けました。地球の構造、地震津波の発生、地殻変動で私達が知らない事が沢山あり、今回の東日本大震災の津波は想定外の発生として放送されています。突然の地震、津波が襲来してくる

さあ、どうすればいい?

一、まず、わが身の安全をまっ先に考える

一、近くの高台までの避難と、より高いところへの避難を

実施

一、家具の固定、通路の整理など日頃の安全対策が必要

一、遠くへの避難はあきらめ、近くの高い建物など、できるだけ高いところへ上がる

一、車による避難は原則禁止

一、財産の保全、持ち出しはあきらめる

一、堅い物(岩場や堤防など)からできるだけ離れる

自らの命は自ら守る。

自らの地域は皆で守る。

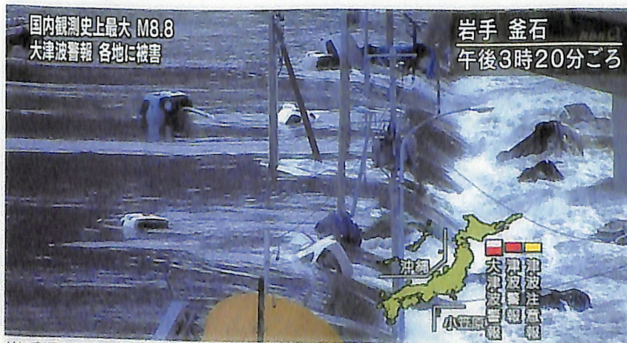
自主防災訓練に積極的に参加しましょう。

現状の解説

沼津市において東海地震が明日にも起きると言われ続けて35年になります。今、ここで東海、東南海、南海の三連動地震が高い確率で発生すると学者や専門家の先生が警告を発しています。しかし、沼津市では現時点において東日本大震災と同じ規模のマグニチュード9の想定をした対策は未だ立てていません。最新版ハザードマップもそのままでの想定になっていません。

第一地区の皆様は自分の命は自分で守るため、自発的に具体的な対策を実行して下さい。

梅沢弘



岩手県釜石市 (11日、NHKニュースから)